

業務実績報告書

提出日 2020年 1月22日

1. 職名・氏名 講師・林潤

2. 学位 学位 博士、専門分野 理学、授与機関 総合研究大学院大学、授与年月 平成11年3月

3. 教育活動 以下すべて、活動期間は過去3年分のみ記入

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 導入ゼミ（1単位 毎年開講 15回担当）1年生（2017-2019年度 毎年度担当）	
② 内容・ねらい（自由記述）	<ul style="list-style-type: none"> レポートの初歩的な書き方、文章表現の仕方を学ばせる。 基本となる科学的な考え方を学ばせる。 プレゼンテーションの初歩の表現技法を学ばせる。 初歩的な科学英語の文章を学ばせる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）	<ul style="list-style-type: none"> 導入ゼミなので、なるべく初歩的なことから基礎知識を習得させるように気をつけている。また、なるべく、知識の羅列ではなく、時事的な事柄、最新のトピックスを盛り込み興味を持ちやすい講義になるように努力している。 プレゼンテーションを実際行い、資料の作成の仕方や口頭発表のやり方を実地で訓練する。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 植物生理学 II（旧園芸植物資源学）（2単位 毎年開講 15回担当）2年生（2017年度）3年生（2019年度）2018年度は授業時間移動のために不開講	
② 内容・ねらい（自由記述）	<ul style="list-style-type: none"> 前期の植物生理学 I の継続として、エネルギー代謝、同化と異化、を担当する。 植物生理学で学んだことをふまえ、植物の生理に関してさらに詳細な知見を学ぶ。これによって、高等植物のエネルギー・物質代謝についての統一的な知識を得ることができ、3年次以降の分子レベルでの学習の基礎を築く。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に学生は予習復習しないのでその現実を踏まえて、今年度より、授業の前半30分を資料参照可での授業内容の小テストを最初に行い、その後、解答説明を兼ねて講義にしている。 期末テストは小テストから出題することをアナウンスしているので比較的まじめに聞いている学生が多い。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 科学英語 I（分担）（2単位 毎年開講 15回担当）2年生（2017年度担当）	
② 内容・ねらい（自由記述）	<ul style="list-style-type: none"> 本学大学院入試レベルの英文が読めるようにする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）	<ul style="list-style-type: none"> 予習させないように授業の始まりにテキスト配布 ランダムに指名して英文を読ませる。

<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 化学実験 (分担) 後期 7 回担当 (2 単位 毎年開講 7 回担当) 1 年生 (2017-2019 年度 毎年度担当)</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同実施教員: 岩崎教授 主な担当者として共同実施者とともに毎回担当したので、7 回とも進行担当、準備、レポート採点を行う。
<p>② 内容・ねらい (自由記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験の心構え、基本的な実験マナーを教育する。 基本的な実験器具の操作を理解させる。 自分たちで出したデータを基にした計算問題を出題して自分の頭で考えさせる。 岩崎教授が、つまづいていたり、疑問点がある学生のアドバイザーとして個別に丁寧に教えて頂いているので大変助かっている。一人がメインで進行、他の教員が学生個別に疑問点を指導するという形は基礎を教える場合には大変有効であると実感している。
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校で習ったことを実際に実験して、教科書で学んだ現象を実際に体験できる様に意識した。学生からのレポートの感想にもそのように書かれていることが散見されるので概ね目的通りに授業ができていると思われる。
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 分子生物学実験 (分担) (2 単位 毎年開講 前期後期各 8 回 計 16 回) 3 年生 (2017-2019 年度 毎年度担当) 前期 8 回担当 分担者: 石川教授 後期 8 回担当</p>
<p>② 内容・ねらい (自由記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> 分子生物学分野における各種の“基本的な”実験技術の習得、分子生物学分野の講義による知識の実証
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> 分子生物学分野の講義内容になるべく沿って実験演習を行い、学んだ知識の実験上での実証を行い、知識が深まるための一助としている。 実験プロトコルの章末に設問を入れ、実験原理等の理解の一助にしている。設問は実験終了後に各グループごとに解答させて公開討議の場を作りすべての設問が理解できるように工夫している。
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 専攻演習 (分担) (2 単位 毎年開講 15 回担当) 4 年生 (2017-2019 年度 毎年度担当) 共同実施者: 分子生物学領域 (5 階) 教員 (岩崎教授、仲下教授、石川教授、加藤准教授、三浦准教授)</p>
<p>② 内容・ねらい (自由記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外の英文論文を熟読、理解させて専門分野における研究の方向性、最新の知識を学ばせる。 学術論文の読み方、データの捕らえ方を学ばせる。 科学的な考え方を学ばせる。 プレゼンテーションと質疑により知識として得たものをいかにして平易に発表するか、といった表現技法を学ばせる。

<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表する学生にはレジュメを用意させ、資料、パワーポイント等により学术论文をなるべく平易に説明させる。 担当学生には論文の内容をきちんと理解させるために個別で数回に分けて熟読、パワーポイントの作成を指導している。 なるべく質問し発表者の一方通行的な演習にならないように心がけている。
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業論文（2単位 毎年開講 15回担当） 4年生（2017-2019年度 毎年度担当）</p>
<p>② 内容・ねらい（自由記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物分子細胞生物学分野の研究を行い、その基礎的な知識、実験を通して、他人から教えてもらい、それを実行するときに、どういったことが必要になるかを実地に教授する。 これは、学生が就職後、初めに直面する非常に大事なことなので、重要視して、何度も行って聞かせ、やってみせて根気強く指導する。
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> 常日頃から、学生と接触を保ち、実験方法の細かな注意点や実験機器類の操作上の注意点などを話し合えるようにしている。
<p>(2)非常勤講師担当科目</p>
<p>①担当科目名（単位数） 開講学校名</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述）</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p>
<p>④本学における業務との関連性（自由記述）</p>
<p>(3)その他の教育活動</p>
<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校教諭教員免許状更新講習 公開講座

4. 研究業績

<p>(1)研究業績の公表</p>
<p>①論文 （タイトル、共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所について）、掲載雑誌名（号数）、掲載（受理）年月日）</p>
<p>②著書 （タイトル、共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ）、出版年、出版社名）</p> <ul style="list-style-type: none"> 細胞死研究の発展に伴う細胞死の新しい定義と分類について New definition and classification of cell death with progress in cell death research 単著 福井県立大学論集 2020年

③学会報告等

(タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所))

- 葉緑体ストレスによるシロイヌナズナにおけるメタカスパーゼ遺伝子破壊体の細胞死誘導解析
日本植物生理学会 第58回年会(2017年3月)
山本恭之将、藤田勇人、林潤
- メタカスパーゼ遺伝子破壊体を用いた細胞死誘導実験
日本植物生理学会 第59回年会(2018年3月)
井村由紀奈、太田康則、伊藤貴哉、小林寛孝、林潤
- メタカスパーゼ遺伝子ノックダウン植物でのシロイヌナズナ葉のリーフディスクの老化
日本植物生理学会 第60回年会(2019年3月)
坂野 剣心、諏訪 巧真、林潤
- メタカスパーゼ遺伝子ノックダウン植物でのシロイヌナズナ葉のリーフディスクの老化
日本植物学会 第83回大会(2019年9月)
島本莉香、千葉未来、林潤
- 年度内予定
メタカスパーゼ遺伝子ノックダウン植物における老化細胞死
日本植物生理学会 第61回年会(2020年3月)
島本莉香、千葉未来、林潤

④その他の公表実績

(2)学会活動等

学会でのコメンテーター、司会活動 (担当報告名、担当学会(大会)名(開催年月日))

学会での役職など (学会名)

学会・分科会の開催運営 (担当学会(大会)名(開催年月日)、開催場所)

(3)研究会活動等

①その他の研究活動参加 (参加研究会名、調査活動名(期間))

②その活動による成果

(4)外部資金・競争的資金獲得実績

(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）
⑥その他（名称、活動場所、活動期間） ● 福井県高校教員講習会（2018年度）
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時） ● オープンキャンパス（毎年度） ● 公開講座「プログラムされた細胞死について」、永平寺キャンパス、2019年度
② 社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時） ● 高校教諭教員免許状更新講習（毎年度） ● 高校入試説明会（北陸高校）2018年度
③ その他（名称、活動場所、活動期間）
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容、主たる活動場所、活動期間）

6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長） （職名、期間）
(2)委員会・チーム活動 （名称、期間）
(3)学内行事への参加 （行事名、参加日時） ● 就職活動支援 模擬集団面接 模擬グループディスカッション 面接担当（2017年度） ● 入学式後の父兄への学部棟案内（毎年度） ● オープンキャンパス（毎年度）
(4)その他、自発的活動など （活動名、活動内容、活動期間） ● 卒論担当4年生との研究論文熟読会を不定期に行う（毎年度） ● 卒論担当4年生の大学院進学希望者がいる場合、分子生物学、生化学を中心とした勉強会を不定期に行う（毎年度） ● 施設管理（毎年度） 501、505、508：実験室の管理、運営、215：P2実験室の管理、運営、213：P2実験準備室の管理、運営 ● 学部内備品委員会（2019年度）実験機器導入